



多 摩 市 立 瓜 生 小 学 校

瓜 生 小 だ よ り

学ぶ喜びのある学校



令和7年度11月号  
令和7年10月31日

## 『心の栄養』を付ける

校長 池田 泰章

10月初旬は暑い日が続き、今年は暑さが長引くかと思いきや、10月下旬からは、冬を感じさせる寒い日もありました。ニュースでも季節の変化に身体が追いつかない様子が報道されています。季節の変わり目で子供たちの体調が心配されますが、体調管理に努めていただいているお陰で、子供たちも元気に過ごすことができます。

11月は「ふれあい月間」です。本校では、児童がいじめを起こさない学級・学校にしていくために、主体的に考える姿勢を養うことをねらいとしております。5日の朝の時間には、東京都教育委員会が作成した「いじめ総合対策（子供版）」を活用し、自分にできることを考える機会として、思いやりの心や人を大切にする気持ちを育ててまいります。一人一人が相手の立場に立って考え、優しい言葉や行動で触れ合える学校を目指し、すべての子供たちが、毎日楽しく笑顔で学校生活を送れるように、教職員が一丸となって今後も取り組んで参ります。

さて、人間には「体の栄養」「頭の栄養」「心の栄養」の三つの栄養が必要です。子供たちには「体と頭の栄養」だけではなく「心の栄養」が特に大切です。子供の「心の栄養」は、やはり読書です。読書は子供の心に深い感動を与え、思いやりの心や想像力などの「豊かな心」を育みます。児童文学者の椋鳩十さんは、子供がよい本を読むことの大切さを次のように述べています。

「感動は心の爆発であり、人生にとっての大切な源だ。優れた本は、滑らかな清水のように、子供たちの心にしみ込み、そういう地下水（感動）を子供の心につくる可能性をもっている。」また、子供の時の読書が大切であることについて、次のようにも述べています。

「子供は、本という新しい世界へ旅立つ旅人である。旅立ちがうまくいけば、あとはもう自分の足で、本の世界をどんどん先へ進む。」小学生の時期に読書体験を多くし、本を読むことの本当の素晴らしさと喜びを体得させることが大切です。読書は間違いなく「豊かな心」を育てます。

「つまかさね」

坂村真民

一球一球のつまかさね 一打一打のつまかさね 一歩一歩のつまかさね  
一坐一坐のつまかさね 一作一作のつまかさね 一念一念のつまかさね  
つまかさねの上に咲く花 つまかさねの果てに熟する実  
それは美しく尊く真の光を放つ

今後、地域・保護者の皆様には、本校の教育活動に対する深いご理解と温かいご協力を心よりお願いいたします。